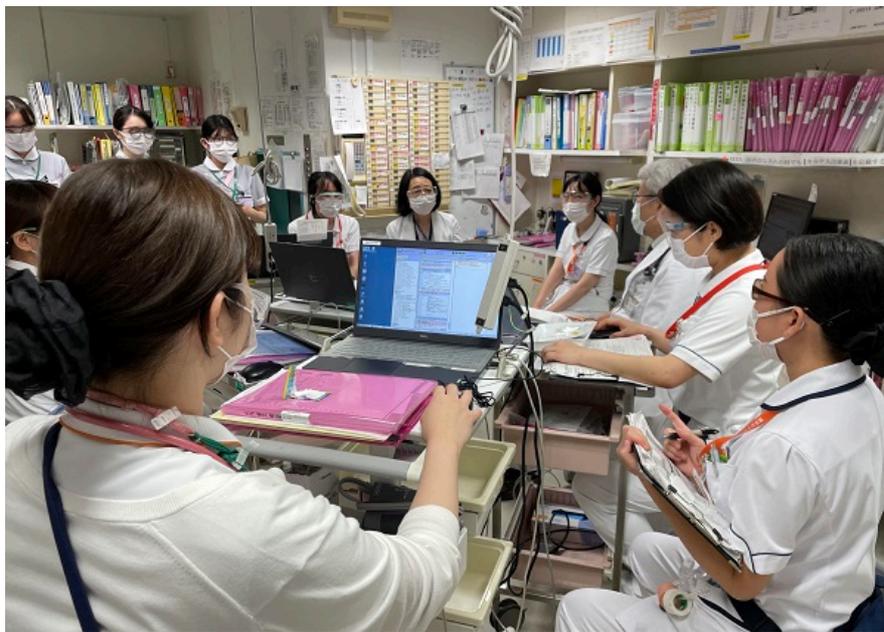


～ 慢性心不全看護認定看護師の役割と活動 ～

私は入職時より循環器小児科病棟で成人先天性心疾患患者さんの看護に関わってきました。そこで若くして亡くなってしまふ患者さんにたくさん出会いました。そのような患者さんにもっと何かできなかったかを考えたい、心不全看護についてもっと勉強し、より質の高いケアを提供したいと思い、2018年に慢性心不全看護認定看護師を取得しました。認定の教育機関で、心不全患者さんができるだけ、自分らしくQOLの高い生活を送るためには、多職種で適切なセルフケア行動の習得支援をすることや病期のステージにかかわらず、全人的苦痛を抱える心不全患者さんや家族への多職種チームによるサポートが重要であるということを知りました。そして、慢性心不全看護認定看護師は実際に心不全患者さんに患者教育や緩和ケアを提供するだけでなく、多職種で介入するための調整役としての役割がとても大きいことも学びました。私は循環器内科と循環器小児科の混合病棟で通常勤務しながら、認定の教育機関で得た学びから特に二つのことに力を入れて活動しています。



心不全緩和ケアカンファレンスの様子

一つ目は心不全スクールの運営です。心不全治療は大前提に疾病管理が必要であると言われていたほど、疾病管理の役割が重要です。しかし、病棟で勤務していると心不全についての知識やセルフケア行動の重要性について知らない心不全患者さんに驚くほど多く出会います。そこで、2020年から医師、薬剤師、理学療法士と協力し、多くの外来患者さんや入院患者さん、患者家族に心不全の疾病管理についての知識を幅広く提供できるよう、集団教育の場を作る活動を始めました。COVID-19流行下であったため感染対策も考えオンラインでの開催を企画し現在までに31回開催、述べ330人にご参加いただいています。また、この活動が安定して継続できるよう、心不全スクールの運営できるスタッフを育成するために心不全療養指導士の資格取得支援にも力を入れています。

二つ目は心不全緩和ケアカンファレンスの開催です。心不全の経過は個人差が大きく、がんとは違い、予後予測が難しいという特徴があります。また多くの心不全患者さんは病期のステージを問わず全人的苦痛を抱えていることが多いため、末期・終末期にかかわらず多職種で全人的苦痛の緩和について検討していく必要があります。そのため、毎月2回、所属病棟内で循環器内科医師、精神科医師、心理士、症例によっては薬剤師、栄養士、理学療法士を含めた心不全緩和ケアカンファレンスを企画し、症状緩和やアドバンス・ケア・プランニングの進め方、退院困難症例の検討、デスクカンファレンスなどを実施しています。

今年度は循環器看護チームのプロジェクトリーダーもさせていただいています。心不全スクール、心不全緩和ケアカンファレンスの運営と共に、循環器関連部署の連携強化、循環器の標準看護ケアの体制整備や知識の向上にも貢献し、心不全看護のケアの向上に尽力していきたいと思っています。